

実践記録 シリーズ

83

大きく育て見附っ子！ —見附市青少年ボランティアバンク—

見附市まちづくり課市民活動係 長谷川昭弘

青少年ボランティアバンクは、小学生5年生から高校3年生までの児童・生徒を対象に、ボランティア活動をしたい人から、(バンク)名簿に登録してもらい、毎月届くボランティア情報をもとに、自分が参加したいと思うボランティアを選んで参加・活動してもらうという事業です。子どもたちの自立心や連帯感などを強め、豊かな心を育てることを目的に、昭和60年にスタートしました。スタッフは現在、専任1名、兼任1名の2名で、ボランティア活動のコーディネート、ボランティア事業の実施を主な業務として行っています。平成15年度では、小学生102名、中学生134名、高校生47名、計283名のボランティア登録を受け付け、コーディネートをを行いました。近年は、登録者の減少、子どもたちの活動への理解不足(活動の意味を理解しないで参加する児童が多いため、無断欠席なども含めて、受け入れ先に迷惑をかけることがあった)、などが問題点として上げられています。登録者の減少、子どもたちの活動への理解不足、という問題は、子どもたちの人数自体が減少していることもありますが、やはりボランティア活動という意義や認識が薄くなっているのではないかと考えられました。

そこで、その解決のため、平成16年度では、ボランティアはどのようなものなのか子どもたちに知ってもらうために、その意義や社会の基本的なルールなどをわかりやすくまとめた冊子を作成し、各学校で新しくボランティア登録の対象となる小学5年生を中心に学習会を開催しました。その結果、平成16年度の登録者数も384名と昨年に比べて101名増加し、受け入れ施設側への迷惑をかけるということもなくなりました。

ボランティアというと、自分を犠牲にしてやるもの、いやなことを無理やりさせられるもの、というイメージが少しついているのではないかと思います。しかし、今は、必要経費をもらって行う有償ボランティアという考え方もあること、できることか



年賀状書き

ら無理をしないで行くことが大切だとあらためて言われるようになってきていること、また、保育園や子育て支援センター、子育ての団体の幼児との交流のお手伝い、公民館事業のお手伝い、読み聞かせのお手伝い、イベントのスタッフなどボランティアの幅も広がってきていることなど、子どもたちが楽しく気軽に参加できるボランティアへと変わってきています。

子どもたちのボランティアは、体験活動的な要素が強いものの、それぞれの活動で、「困っている人を助けたいという気持ちは、行動にあらわすことによって、自分にも帰ってきてすごくうれしい気持ちになれる」ということを実感することになり、活動は子どもたちに確実に何かを残しているようです。

現在、青少年ボランティアバンク事業は、いくつかの変遷を経てまちづくり課の市民活動を推進する部署にあります。ボランティアは自分で考え主体的に活動するものです。それは、市民活動にもつながります。協働のまちづくりを進めている見附市において、ボランティアを体験することにより、子どもたちが地域社会への参加意識を育み、市民活動の担い手となって、見附のまちを大きくしていったらと、まちづくり課一同、大きな期待を寄せているところです。